

SDGs未来都市等進捗評価シート

2021年度選定

岩手県一関市

2022年8月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

一関市 SDGs未来都市計画

未来を見つめ、世界が憧れるまち いちのせき ～新たな価値の創造による持続可能な地域づくり～

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

一関市SDGs未来都市計画 未来を見つめ、世界が憧れるまち いちのせき ～新たな価値の創造による持続可能な地域づくり～

(2) 2030年のあるべき姿

- ①幅広い世代が地域に誇りと愛着を持ち、若者、女性、高齢者などの多様な人材が活躍している。
 ②豊富な森林資源や多岐にわたる農畜産物などともに多様な人材を含めた地域資源が、価値を高めながら地域内で好循環している。
 ③中高生の意見を市政に反映させるなど、まちづくりへの若者（将来世代）の積極的な参画により、将来世代がまちづくりの主役となっている。

(3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※【】内はゴール・ターゲット番号	当初値	2021年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	新規就農者数 【2.3,2.4,8.3,8.5】	2020年 13人	2021年 60人	2025年 157人	33%
2	新製品・新技術開発の件数 【9.4,9.5】	2020年 18件	2021年 109件	2025年 60件	217%
3	「いちのせきSDGsプラットフォーム」に参加する団体数 【11.3,17.17】	2021年 0団体	2021年 0団体	2030年 100団体	0%
4	新規高卒者の管内就職率 【8.3,8.5】	2020年 46.7%	2021年 50.3%	2025年 55.0%	43%
5	二酸化炭素排出削減割合 (2013年比) 【7.2,13.3】	2018年 -11.4%	2019年 -24.6%	2025年 -20.4%	147%
6	燃料用木材生産量（絶乾重量） 【7.2,13.3,15.2】	2020年 30 BDt	2021年 45 BDt	2025年 98 BDt	22%

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- ・企業が一関工業高等専門学校や岩手県南技術開発センターと連携して技術開発に取り組んでおり、すでに新製品・新技術開発の目標値を達成しているが、引き続き、新製品・新技術開発を支援し、地元企業の付加価値創出により地域の活性化を図る必要がある。
- ・二酸化炭素排出削減は目標値を上回ったが、産業の生産活動が低下したことによる影響が大きいと思われる。引き続き、個人住宅への再生可能エネルギー設備導入支援を行い「小さな循環」の形成を促進しながら、将来的な地域新電力会社設立による「大きな循環」への発展に向け取り組んでいく。加えて、2030年のあるべき姿を実現するためには、二酸化炭素排出削減を地域産業の活性化につなげる取組について検討していく必要がある。
- ・いちのせきSDGsプラットフォーム構築に向け、様々なステークホルダーにおけるSDGsへの理解醸成を図るため出前講座などを開催していく。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2021年～2023年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
1	多様な人材が活躍するまち	審議会の女性委員比率	2020年 48.9 %	2021年 53.1 %			2025年 60 %	38%
2	多様な人材が活躍するまち	新規高卒者の管内就職率	2020年 46.7 %	2021年 50.3 %			2023年 52 %	68%
3	地域資源が好循環する持続可能なまち	農商工連携開発事業費補助金活用による6次産業化商品開発件数※累計	2020年 4件	2021年 4件			2023年 20件	0%
4	地域資源が好循環する持続可能なまち	燃料用木材生産量(絶乾重量)	2020年 30 BDt	2021年 45 BDt			2023年 98 BDt	22%
5	2030年のその先の未来も見つめるまち	高校生による地域課題解決事業に取り組む高校数※累計	2020年 0校	2021年 1校			2023年 5校	20%
6	2030年のその先の未来も見つめるまち	二酸化炭素排出削減割合(2013年比)	2018年 -11.4 %	2019年 -24.6 %			2023年 -18.2 %	194%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

・地域資源が好循環する持続可能なまちの取組においては、目標値として掲げている小学校へのチップボイラーの供給に留まらず、地域事業者への導入を進めることで、チップ生産量の増加や市民によるチップ原料となる木の集材活動に大きな広がりが見込めることから、民間への導入検討や調査などに取り組んでいく。

・6次産業化の推進にあっては、生産者個々の取組では限られる部分もあることから、地域ならではの地域資源を使ったストーリー性や発信力のある商品開発を地域の生産者や商工業者等が一体的に行うなど、地域ぐるみで取り組む6次産業化の推進についても検討していく。

・まずは、SDGsに取り組む地域事業者の裾野の拡大を目指すため、地域事業者が比較的に参画できる宣言制度の構築について検討を行っている。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

・二酸化炭素排出量は大幅に減少したが、この大幅な減少には、当市の製造品出荷額が大きく低下したことが影響しているものと思われる。SDGsの推進には、二酸化炭素排出量を削減する取組を地域産業の活性化につなげる仕組みづくりが必要である。

・地域資源を活用した6次産業化や農商工連携による新たな価値を見出す商品開発に取り組む事業者がいる一方で、消費者目線の商品開発や販路の確保、生産、加工、販売まで一体的な取組を行うための一定の事業目標の設定などのビジョンの明確化が必要となることなどが課題となっていることから、バイヤーのニーズを踏まえた商品開発やその先の販路を見据えた事業展開が必要と捉えており、商品開発や販路拡大のスキルの習得を目指す販路開拓セミナーやバイヤーとのマッチングの機会となる商談会の開催など、生産者が独自の手法により実践的なビジネス展開を図ることができるような支援策に取り組むこととしている。

・SDGsモデル事業の提案内容の進捗状況については、本市の経済面の課題である「地域の稼ぐ力の向上」に資する地域プロジェクトマネージャーを令和4年10月1日から任用し、地産外商に関係するステークホルダー間の橋渡しと現場責任者として、地域課題を解決するプラットフォームの構築を目指し、地域経済の活性化につながる取組を推進していくこととしている。

(4) 有識者からの取組に対する評価

・地域住民と連携して人材育成に取り組む、着実に実績を上げている点で評価できる。引き続きこの方向性で取り組んでいただき、一層の地域活性化の成果があがることを期待する。

・施策も同様であるが、指標についてはもう少し工夫することで、パンデミックなどに直面しても評価可能な施策や指標を設定することを期待する。